

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和2年12月18日 報告者：岩田 英紘

行事種別	研究会	行事番号	200003342
開催日	令和2年11月20日(金)～12月3日(木)		
時間	開始	—	終了
場所	Web配信(Web録画)		
テーマ	がん遺伝子パネル検査の理解と応用		
生涯教育履修点数	専門教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)		
司会	(有) 胎児生命科学センター 鈴木 翔太		
講師	<p>講演1：「NCC オンコパネル システム検査 ラボオペレーションの実際 ～正確な検査結果を患者様へお届けするための取り組み～」 株式会社理研ジェネシス 営業部クリニカルシーケンス課 下田 泰裕</p> <p>講演2：「パネル検査結果の解釈のすすめ」 藤田医科大学 総合医科学研究所 分子遺伝学研究部門 稲垣 秀人</p>		
内容	<p>今回は Web 配信での研究会開催であったため、愛知県会員以外の多くの他都道府県会員から参加申し込みがあった。</p> <p>講演1では、がんゲノムプロファイリング検査の品質保証とプレアナリシス工程の重要性について解説していただいた。特に、DNA 品質が検査結果に影響を及ぼす主な要因として、固定時間の改善や壊死部分の除去などが挙げられ、具体的な対策についても提案していただき、現場ですぐに活用できる内容であった。</p> <p>講演2では、次世代シーケンシング解析の原理、バリエーションの表記法と評価、バリエーションの解釈、二次的所見などの内容について解説していただいた。特に、バリエーションの評価においては、病原性の証拠となる ACMG ガイドラインの概要について詳細に紹介していただいた。バリエーションの解釈においては、すでに保険適応されている FoundationOne CDx の結果レポートを例に、どのような内容が記載されているのか、丁寧に提示していただいた。</p> <p>本研究会では、非常に実用的でかつ興味深い内容であり、普段自施設でエキスパートパネルに参加した方から、講演内容に興味があって参加した方まで、有意義な機会を提供できたと考えられる。</p>		
参加者	総数：54名(会員54名)		
共催、後援など	特になし		

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和2年12月20日 報告者：岩田 英紘

行事種別	研究会	行事番号	200003768
開催日	令和2年11月21日(土)～12月4日(金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web配信(Web録画)		
テーマ	新型コロナウイルス遺伝子検査を知る -PCRに携わるスタッフが知っておきたいこと-		
生涯教育履修点数	専門教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)		
司会	Web録画配信のため司会は設定せず		
講師	<p>講演1：PCR検査で知っておきたい基礎知識 -原理を知ればPCRがもっと理解できる- 中部大学 祖父江 沙矢加</p> <p>講演2：PCR検査における精度管理 -品質保証は日々の精度管理から- 名古屋大学医学部附属病院 渡邊 かなえ</p> <p>講演3：実技動画で学ぶ遺伝子検査の基本手技 -正しい結果は正しい基本手技から- 愛知医科大学病院 坂梨 大輔</p> <p>講演4：新型コロナウイルス遺伝子検査総覧 -数多ある選択肢からどのように選ぶか- 豊橋市民病院 山本 優</p>		
内容	<p>講演1では、PCRの基本となる増幅原理を中心に解説していただいた。また、臨床現場で応用されるRT(Reverse Transcription)-PCRやReal-Time PCR、LAMPなどの使用目的や検出・解析方法についても解説された。最後に、新型コロナウイルス検出に用いる市販キットを例として提示し、キットによってターゲットとする遺伝子領域が異なり、検査結果が変わる可能性についても触れていただき、ターゲット領域を知っておく必要性が理解できた。PCR原理を正しく理解することにより、他検体や陽性コントロールからのコンタミや反応阻害物質による検査結果への影響が理解できる内容であった。視聴者からは、RT-PCRとReal-Time PCRの語句の違いについての質問があり、よく混同される用語について再確認する機会となった。</p> <p>講演2では、遺伝子検査の精度管理を中心に解説していただいた。医療法改正からみる遺伝子検査における精度管理の重要性やコントロールの種類、コントロールの使用例が解説された。特に、新型コロナウイルス検出の遺伝子検査を開始するにあたっ</p>		

	<p>て、演者の施設での精度管理物質や手順の検討内容を詳細に提示していただき、コントロールによる結果解釈の注意点が良く理解できる内容であった。視聴者からは、精度管理用コントロールについての質問があり、普段遺伝子検査に携わっていない参加者にとっても、コントロール分類の内容を知る機会となった。</p> <p>講演 3 では、遺伝子検査の基本手技について動画を交えて解説していただいた。交差汚染などを防ぐためにも、遺伝子検査においてピペット操作は非常に重要であり、注意すべき点が少なくない。そういった点も含めて動画では解説がされており、非常に勉強になる内容であった。</p> <p>最後の講演 4 では、新型コロナウイルス感染症診断に使用できる試薬や機器の選定における考え方を解説していただいた。現在、非常に多くの機器や試薬が販売されており、どの試薬や機器を使えばよいかを迷っているという声もある。そこで、本講演では各機器や試薬の特徴を概説しながら、選定をする際の考え方を紹介いただいたことで、機器や試薬ごとの特徴を把握することができた。</p>
参加者	総数：123 名（会員 123 名）
共催、後援など	特になし

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和3年2月21日 報告者：岩田 英紘

行事種別	講演会	行事番号	200004387	
開催日	令和3年1月22日(金)～2月4日(木)			
時間	開始	—	終了	—
場所	Web配信(Web録画)			
テーマ	がんゲノム医療への取り組み～がん遺伝子パネル検査の運用と実情～			
生涯教育履修点数	専門教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)			
司会	名古屋第二赤十字病院 岩田 英紘			
講師	<p>講演1：「当院におけるがん遺伝子パネル検査の運用 ～がんゲノム医療連携病院として～」 JA愛知厚生連 安城更生病院 臨床検査技術科 杉浦 記弘</p> <p>講演2：「当院での院内がん遺伝子パネル検査とがんゲノム医療への取り組み」 社会医療法人 厚生会 木沢記念病院 検査技術部/中部がんゲノム医療研究センター 澤田 清矢</p>			
内容	<p>今回はWeb配信での講演会開催であったため、愛知県会員以外の多くの他都道府県会員から参加申し込みがあった。</p> <p>講演1では、「がんゲノム医療に対する行政の取り組み」と「がんゲノムプロファイリング検査の種類と特徴」、「がん遺伝子パネル検査の運用と構築」について解説いただいた。特に、がん遺伝子パネル検査の運用と構築では、病理組織検体の質の管理などの検査の精度向上への関与だけでなく、C-CATの登録や依頼・結果管理を臨床検査技師が行い、医師や他職種の負担軽減に貢献できることなどを講演いただいた。</p> <p>講演2では、検体品質への具体的な取り組みについて解説いただいた。特に、手術室に組織検体を一時保管するための冷蔵庫を完備する体制は多くの施設で課題となっているが、摘出後の組織検体を冷蔵保存するかしないかでの具体的なDNA品質の違いの検討結果を提示いただくことで、ホルマリン固定までの検体管理の重要性が再認識できた。</p> <p>本講演会では、実際に臨床検査技師がどのようにゲノム医療に関わり、検査の精度向上に貢献できるか、有意義な情報を提供できたと考えられる。</p>			
参加者	総数：68名(会員68名)			
共催、後援など	特になし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和3年3月5日 報告者：岩田 英紘

行事種別	研究会	行事番号	200005591
開催日	令和3年2月13日(土)～2月26日(金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web配信(Web録画)		
テーマ	遺伝子検査における精度管理を考える		
生涯教育履修点数	基礎教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)		
司会	Web録画配信のため司会は設定せず		
講師	講演1：「2020年度愛臨技精度管理報告」 胎児生命科学センター 鈴木 翔太 講演2：「病理関連の遺伝子サーベイからみる課題と今後」 名古屋第一赤十字病院 郡司 昌治		
内容	<p>講演1では、今年度から遺伝子班が開始した愛臨技精度管理調査結果について報告がされた。今回の精度管理事業は、「遺伝子関連検査の基礎知識」「感染症関連検査の基礎知識」「病理関連検査の基礎知識」の3つに分けて合計10問の設問により実施し、それぞれの設問に対して詳細に解説いただいた。遺伝子検査は施設によって実施項目・内容に大きく差があるが、実施していない施設においても、基礎知識を整理する有意義な機会になったと考えられた。</p> <p>講演2では、検査室の環境や核酸の性質、検体保存条件について解説していただき、これらが検査の質に影響を及ぼす可能性について示された。また、核酸抽出の方法によって、得られる核酸の質や収集量が異なることや、病理分野では固定前プロセスや固定プロセスが検査結果に重大な影響を及ぼすことなどを、具体例を交えて解説いただいた。</p> <p>本研究会では、実際の測定系の精度管理だけでなく、測定するまでの検査前プロセスにおいても、検体の種類に応じた最適な条件で前処理・保管することの重要性を考える機会を提供できた。</p>		
参加者	総数：63名(会員63名)		
共催、後援など	特になし		